

第5期事業報告

1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構は、(財)日本バレーボール協会から独立・法人化して、今期で5年目を迎えました。

平成20年(2008年)9月開催の定時社員総会で選出しました梅野 實を代表理事会長とする新執行部は、平成21年(2009年)9月開催の定時社員総会で任期満了に伴う2名の監事の改選で就任しました新監事を迎えて、10名の理事と2名の監事の役員体制のもとで平成21年度の活動に取り組みました。

平成20年度(2008/09シーズン)をもって、休・廃部となった男子のNECブルーロケッツ、女子の武富士バンブーの退社が平成21年(2009年)9月開催の社員総会で承認されたため、総社員数は38団体(35法人(対前期比=1法人減)、2任意団体、1官公庁)基金総額25,500,000円(51口=対前期比2口減)、となりました。

アメリカ第4位の証券会社リーマンブラザーズの経営破綻、いわゆるリーマンショックという世界同時不況から抜けきれないでいる中で、各チームは母体企業や協賛企業から活動コストの削減を厳しく求められる状況のシーズンでありました。さらに、新型インフルエンザの流行というアクシデントも加わって、今季の大会運営への影響も大いに心配されましたが、ホームチームを含む開催地の尽力もあり、各チーム・選手は熱戦を繰り広げ、4月10日～11日の女子、男子の優勝決定戦をもって全日程を消化し、無事に大会を終了することができました。

1年間を通して、法人設立時に掲げた5つのキーワード、「世界に挑戦」「ファン重視」「地域に密着」「常に発展」「成果の拡大」の実現のための施策にも力を入れました。項目ごとの進捗に差異はあるものの成果をあげてきています。

以下、個別事業の活動概況を、メイン事業のプレミアリーグ、チャレンジリーグを中心に詳述します。

(1)V・プレミアリーグ

今2009/10シーズンは、女子が7シーズンぶりに8チーム制となり、男女とも8チームによる4回戦総当たりリーグ戦のレギュラーラウンドと、上位4チームによるセミファイナルリーグ戦および上位2チームによる優勝決定戦(ファイナル)という競技形式で、男女各120試合、計240試合を、延べ74会場(女子39会場、男子35会場)で開催しました。

オリンピックの翌年に毎回日本で開催される国際大会「ワールドグランドチャンピオンズカップ」の終了を待って、女子は11月28日に開幕、男子は12月5日に開幕し、途中で(財)日本バレーボール協会主催の天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会(ファイナル:12月17日～20日)を間に挟んで、2010年4月10日～11日のファイナルまで4ヶ月半に及ぶ大会となりました。

“ホームゲームの充実と拡大”や“全国各地でのV・プレミアリーグの開催”、“社会貢献活動の継続的展開”、“ファンサービスの充実”など、様々な施策を行いました。

それらの主なものは、次のとおりです。

- ① 大会キャッチコピー
毎年一般から公募して決めているVリーグのキャッチコピーについては、2009/10 シーズンは、「ファン重視」、「地域密着」の視点を考えて、『キミの街にVがいる！～輝く笑顔をボールにのせて～』を採用しました。
- ② 普及とファンサービス
 - (I) 北から南まで全国延べ 74 会場での開催
 - (II) キッズエスコートの全会場での実施を推進
 - (III) 開場後からプロトコール前後のイベントマニュアルの見直しと充実
 - (IV) エントランスアーチ、バルーンカラムなど会場内外演出の見直しと充実
 - (V) サイン入りミニボールの投げ込み
- ③ ファイナルラウンドの充実
 - (I) レギュラーラウンド 1 位チームへ賞金と副賞(アジアクラブ選手権派遣)の授与の継続
 - (II) 3 位決定戦、優勝決定戦の男女大会を同一会場で開催
 - (III) 「The Premier Day=日本一が決まるプレミアな瞬間！」をタイトルコンセプトに掲げ、チーム・選手には「日本最高峰リーグのトップを決める一日」、ご来場の皆様には「優勝の場に立ち会い「感動」を共にする一日」と謳って各種のイベントを実施
 - (IV) ワンデープログラムの発行
 - (V) 優勝チームのウインニングパレードとサイン入りの試合球とミニボールの投げ込み
- ④ 骨髄バンク支援活動の継続
 - (I) 大会会場における啓発活動(全会場でリーフレットを配布)
 - (II) 複数会場内にてスーパーバンドによる V リーグテーマソングなどのミニライブ実施
 - (III) ファイナルラウンドイベントでの募金活動とワンコインチャリティ、献血、ドナー登録会など実施
- ⑤ ホームページ等によりファンサービスの充実と盛り上げ
 - (I) ホームページのリニューアル(RCMS 方式)で、情報発信の迅速化、画像情報強化など実施
 - (II) ホームページの充実したコンテンツと迅速な情報発信
 - (III) JVIS スーパーバイザー制度による判定員の意識向上とレベルアップ
- ⑥ ホームゲームの充実
 - (I) ホームゲームの計画的な運営(ホームゲーム計画書の提出の義務化)とイベント充実の促進
 - (II) 各チームでの取り組みの充実
 - (III) 女子レギュラーラウンド全 112 試合中 34 試合、男子全 112 試合中 42 試合でホームゲームを実施
- ⑦ その他
 - (I) テレビ放送について、例年どおり決勝を NHK 総合が地上波で時差放送したが、フジ CS の放送がなくなったことと、冬季オリンピック期間中で放送機会が減ったことから放送回数 が例年より下回りました。

入場者数を見ると、男女合計で 323,832 人(対前年比 42,794 人減)、男子は 150,812 人(同 14,417 人減)、女子では 173,020 人(同 28,377 人減)と減少しました。原因としては、女子のチーム数減による試合数の減、開催地数の減、不況によるチーム動員応援者数の減少などが考えられますが、このような事態においても観客動員数の増加策は今後の大きな課題となりました。

(2) V・チャレンジリーグ

男子 11 チーム、女子 12 チームとなった V・チャレンジリーグは、女子 11 月 28 日～3 月 21 日に、男子は 1 月 9 日～3 月 21 日、開催しました。

チーム数の増減(男子 1 チーム減、女子 2 チーム増)に伴い今シーズンも、男女とも全チームによる 1 回戦総当たりリーグ戦の前半戦と、その成績を持って上位 6 チーム、下位 6 チーム(男子は 5 チーム)に分けた上位リーグ戦、下位リーグ戦の後半戦を行う変則競技方式で、女子 96 試合(対前年比 6 試合増)、男子 80 試合(対前年比 14 試合減)を女子は延べ 21 会場、男子は延べ 15 会場で開催しました。

チャレンジリーグの運営を、プレミアリーグのそれに近づけ大会の質の向上と運営の効率化の改善を年々行なってきましたが、Vリーグ加入 4 年目のシーズンとなった今シーズンはさらにこれを推し進めました。

具体的には、公式プログラムのプレミアリーグとの合本を昨シーズンに引き続き実施したのに加えて、ポスターデザインの統一やホームタウンゲームの実施、派遣役員体制の整備などを行ないながらも、サイン入りミニボールの投げ込みやキッズエスコートなど、ファン対策・集客アップにつながるイベントの標準化も進めてまいりました。

入場者数は、男女合計で 54,672 人(対前年比 977 人増)、男子は 20,217 人(対前年比 2,872 人減)、女子は 34,455 人(対前年比 3,849 人増)となりました。今シーズンも入場者数で見ると、女子は増加し、男子は減少しました。特に、男子の減少傾向に対してはいろいろな角度から原因と対策の考察をする必要があります。

(3) バレーボール教室の開催等

このほかに、Vリーグ機構としては年間を通して、バレーボール教室の実施(チームによるバレーボール教室および日本小学生バレーボール連盟が行なう「Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室」)や、2006 年度から始めた「ジュニアチーム育成支援活動」など、地域に密着した社会貢献型の活動にも引き続き力を入れていきます。

チーム主催のバレーボール教室は、全国各地で延べ 734 日開催し、小学生から家庭婦人まで 46,544 人の生徒を迎えて盛況のうちに実施し好評を博しました。

(4) 国際交流

① 2010 日韓 V.LEAGUE TOP MATCH

4 回目を迎えた日韓 V. LEAGUE TOP MATCH を、今シーズンは経費削減と大会順位の明確化の観点から、日韓の Vリーグの 1 位チーム同士が、1 試合対戦して勝敗を決する方式に変え、男女とも韓国・ソウルで、4 月 25 日(日)に行いました。

② アジアカラブ選手権

トップリーグの国際競技力強化、アジア地域におけるスポーツ文化交流の面で重要な大会であることから、2007 年から Vリーグ機構の負担で再参加しましたアジアカラブ選手権大会へ、

予定通り今年度もレギュラーラウンドの1位チームの副賞として、男子はパナソニックパンサーズを中国へ、女子はJTマーヴェラスをインドネシアへ派遣しました。

③ 2010 日韓 V.LEAGUE トレーナーワークショップ

2007年に日韓有志のトレーナーの呼びかけで始めてから4年目を迎えた『2010 日韓 V.LEAGUE トレーナーワークショップ』を、今年は韓国・ソウルで5月28日～30日に行い、日本から4名のチームトレーナーを派遣しました。

(5)助成金

我が国における国際競技力の向上を期すための国の交付金支給制度「競技強化支援事業助成金(トップリーグ運営助成)」を当機構は制度開始の平成15年度から毎年支給を受けてきています。平成21年度については、年度初めに前年度同額の18,000千円の交付決定を受けたのに加え、期中に15,000千円の特別助成の交付決定を受け、助成金事業計画の推進に貢献するところが大きいものでありました。

今後とも、制度の主旨にそった有効な活用に心がけ、競技力向上とリーグの活性化に努めていく所存です。

(6)協賛について

今シーズンもプレミアリーグに対して、多くの企業から協賛をいただくことができました。

協賛いただいた企業の皆様と、お世話になりました(株)電通ならびに(財)日本バレーボール協会のパートナーシップに厚くお礼申し上げます。

(7)基本問題検討委員会等各種委員会活動

理事会・運営会議・運営幹事会等のVリーグ機構主要会議より発議発案された課題や問題点など、主にVリーグ機構運営上の重要課題について検討する各種委員会の活動を今期も活発に行いました。特に、新カテゴリー構想案と収益改善提案について、短期的課題と中長期的課題の両面から検討することを目的とした「基本問題検討委員会」を新たに立ち上げて、集中的に議論をしました。この活動の成果は、短期的にはコスト削減に成果を上げ、中長期的には各チームの活動実態の把握と「Vリーグのあり方」を巡る今日の活発な議論につながっています。また、「新型インフルエンザ対策」が緊急テーマとして取り上げられ、対応策を検討しましたが、この検討結果は、開幕直後にチャレンジリーグ女子の2チームで発生した一部選手の感染による出場辞退に活かされました。

以上のような当機構の活動の結果を経営数値面で見ますと、事業収益は総額477百万円(前期比19百万円減)、費用総額は437百万円(前期比50百万円減)、経常利益は40百万円(前期比31百万円増)、当期利益23百万円(前期比15百万円増)の減収増益となりました。

今後の見通しとしては、欧米の財政危機、雇用不安等により世界経済の先行きに懸念が広がり、日本の景気回復も早期には望めない様相であります。当機構の運営および当機構の主催大会の活性化のために、財政の安定、充実に向け一層の効率的な経営に取り組む所存です。

法人設立時に掲げた5つのビジョンの実現に向け、より活性化した組織運営と事業活動に継続して取り組むとともに、(財)日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会ほか他関係諸団体との協力関係もより一層緊密化を図り、社員各位の期待に応えていく所存です。

2. 法人の概況

社 員 名	チ ャ ム 名	区 分	基 金 の 口 数	基 金 の 額 (円)
財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ウォーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリービジネスエキスパート株式会社	サントリーサンパーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東北バイオニア株式会社	バイオニアレッドウィングス	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	2	1,000,000
	東レアローズ	女子		
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	J Tサンダーズ	男子	2	1,000,000
	J Tマーヴェラス	女子		
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
医療法人社団愛友会上尾中央総合病院	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィータ	男子	1	500,000
株式会社栗山米菓	Befcoビービースターズ	女子	1	500,000
警視庁	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
社会福祉法人健祥会	健祥会レッドハーツ	女子	1	500,000
三洋電機株式会社	三洋電機レッドソア	女子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトS T I N G S	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
NPO法人つくばユナイテッドVOLLEYBALL	つくばユナイテッドSunGAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	F C 東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ(株)	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通	男子	1	500,000
KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	阪神デルフィーノ	男子	1	500,000
NPO法人エイティエイツバレーボールクラブ	四国Eighty8Queen	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペット	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSSサンビームズ	女子	1	500,000
合 計 (38団体) (39チーム)			51	25,500,000

3. 運営体制

(1) 概況

第3期役員のうち理事につきましては、平成 20 年 9 月に改選され、今期は改選時期ではありませんでしたが、監事につきましては、平成 21 年 9 月が改選期に当たり、役員改選を行いませんでした。

(2) 役員一覧 平成 22 年 6 月 30 日現在

代表理事・会長	梅野 實 うめの みのる	昭和 21 年(1946 年)10 月 7 日生まれ 第 1～5 期理事、第 4～5 期代表理事会長 日本たばこ産業(株)顧問
理 事・副会長	中野 泰三郎 なかの たいざぶろう	昭和 22 年(1947 年)3 月 11 日生まれ 第 1～5 期理事 東京コカ・コーラボトリング(株) 取締役副社長執行役員
理 事	山岸 紀郎 やまぎし のりお	昭和 18 年(1943 年)2 月 11 日生まれ 第 1～5 期理事、第 1、3 期代表理事 (財)日本バレーボール協会理事
理 事	三好 徹 みよし とおる	昭和 22 年(1947 年)4 月 15 日 第 2～5 期理事 三好総合法律事務所
理 事	間野 義之 まの よしゆき	昭和 38 年(1963 年)12 月 2 日生まれ 第 2～5 期理事 早稲田大学スポーツ科学学術院教授
理 事	前田 剛 まえだ ごう	昭和 20 年(1945 年)7 月 20 日生まれ 第 4～5 期理事
理 事	井原 実 いはら みのる	昭和 22 年(1947 年)1 月 28 日生まれ 第 4～5 期理事 井原実公認会計士事務所
理 事	山下 仁 やました ひとし	昭和 21 年(1946 年)9 月 5 日生まれ 第 4～5 期理事 元・JTサンダーズバレーボール部長
理 事	永田 幸雄 ながた ゆきお	昭和 26 年(1951 年)12 月 23 日生まれ 第 4～5 期理事 元・武富士バンブーバレーボール部長
理 事	梅北 精幸 うめきた せいこう	昭和 34 年(1959 年)8 月 25 日生まれ 第 4～5 期理事 Vリーグ機構事務局長
監 事	滝本 規明 たきもと のりあき	昭和 18 年(1943 年)12 月 4 日生まれ 第 5 期監事 元・サントリー(株)取締役、監査役
監 事	木村 憲治	昭和 20 年(1945 年)7 月 19 日生まれ 第 5 期監事
	きむら けんじ	元・松下電器産業特品マーケティング本部長